

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	ソーシャル・コンピューティング (荒牧 英治 (教授))		
学籍番号	2311190	提出日	令和 7年 1月 21日
学生氏名	中岡 明義		
論文題目	行動分類のためのコーパス構築と行動分析への応用		
要旨			
<p>人々の日常生活における行動の理解は、社会学や医療、公衆衛生など多様な分野で重要な課題である。近年のソーシャルメディアの普及に伴い、人々の日々の行動に関わるテキストデータが蓄積されるようになり、行動分析のための材料として注目されている。そこで、本研究ではテキストから日常生活における行動を抽出する基盤を構築することを目的とする。具体的には、総務省統計局の社会生活基本調査で用いられている20種類の行動を基に日常生活における行動を定義した。これらの行動をソーシャルメディアテキストおよびクラウドソーシングで収集した「LIFE STORY」データセットにラベル付けし、2つのコーパスを構築した。これらのコーパスを用いて分類モデルを構築し、その分類性能を評価した。さらに、コーパスにおけるラベルの不均衡問題に対処するため、大規模言語モデルを用いたデータ拡張を行い、分類性能の向上を確認した。加えて、構築したコーパスおよび分類モデルの有用性をさまざまな分野で検証するために、2つのケーススタディを実施した。医療分野では、肝機能障害のリスクが高い人々とそうでない人々の日常生活における行動を比較した。公衆衛生分野では、Covid-19前後のエピソードから抽出した行動を定量的に分析した。これらのケーススタディを通じて、構築したコーパスおよび分類モデルの多様な応用可能性を確認した。</p>			